

高齢犬ケアにおける飼い主の対応策

Measures Owners Can Take in the Nursing Care of Elderly Dogs

中塚圭子 ドルチェカーネ代表 JAHA 認定ドッグトレーニングインストラクター
Keiko NAKATSUKA Representative of Dolcecane, JAHA authorized Dog Training Instructor



皆様こんにちは。
JAHA 認定家庭犬のしつけインストラクターの中塚圭子と申します。

私は、1993年から約15年間、インストラクターとして働いて真行きました。

その間、生徒さんとさまざまな悩みを解決してきました。



【スライド1】

ペットブームの到来と共に年月を重ねてきた犬たちが、まさに老犬時代を迎え、老犬特有の悩みが次第に増え、そのことについても実践を重ねて参りました。

人間の老人問題と同じように老犬たちも医学的なことの解決とともに日常生活での悩みを多く抱えるようになります。

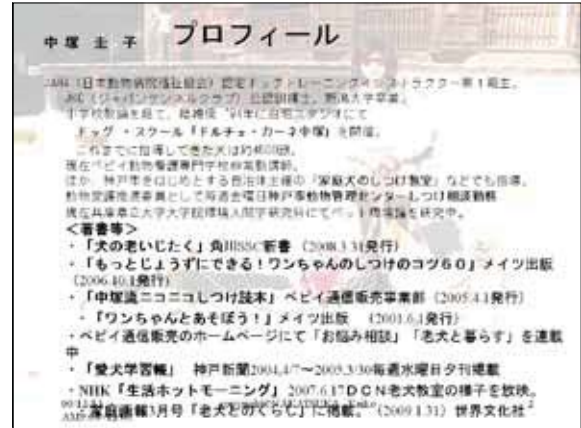
写真は愛犬サリーです。14才8ヶ月にして亡くなりましたが、私にさまざまなコトを教えてくださいました。その他、私が見送った家族であったベル、ジーコ、そして私の大切な犬とものお話を交えながら老犬の自宅管理へのアドバイスについて講義をいたします。暮らしの工夫についてお実演も出来る限り行おうと思います。今日は皆様どうぞよろしくお願いいたします。【スライド1】

自己紹介です。小学校の先生をしていました。

動物行動学と、人間の心理学に共通点がありました。犬の習性を知りながら、飼い主さんと共に一緒に悩み一緒に勉強と実践を重ねていきました。

こんなにたくさんのお話を聞くことが出来たのは、飼い主さんの生の声を集めていったからだと思っています。

書き留める習慣というのは取っても大事なことで



【スライド2】

と感じています。

ノートを持つ習慣は、動物病院の看護師さんでは極当然のこと。そこに間かれた質問をたくさん書いていくことをしました。

そして、書いたものの答えを本にしていけることが大切だと思えました。

本に出来なかったことを調べたり人に効いたりして更に充実させていくという方法で今までやってきました。

生活ホットモーニングでは、多くの老犬問題を世に提案できたとともに、日本で老犬教室を持つことができました。【スライド2】



【スライド3】

若山先生のお話にもありましたように、近年高度医療や室内飼いなど、犬にとって良い環境を提供するようになったため、犬の平均寿命は年々延びてきています。

1990年に8.6歳であった平均寿命も今や11.9歳になりました。【スライド3】

2006年の報告では7歳以上を占める割合が42.7%であったものが、なんと2007年には55.3%と、1割以上も増えてきたのです。

大型犬がまさにこのように移行していきました。今や大型犬の老犬問題まったただ中です。

大きいから人間の負担も大きいのが特徴で、小型犬の問題が今後出てくるだろうと思われまます。特にダックスですね。足腰に不安があります。

私が行ってきたしつけ方教室もこの時代のニーズによって生まれてきたといえます。

大型犬のしつけに困り、しつけ方教室が導入されました。その頃の子犬が06年には老犬となり、今、まさにお迎えの時期を迎えています。

老犬クラスの先輩メンバーを見て、次々に集まってきました。

では、いくつかから老犬なのか??人間との比較表で見てください。ちなみにあなたの愛犬は何歳ですか?

現在14歳を先頭に、5歳の犬までのメンバーが居ます。

老犬教室は「老いじたく」教室ですので、7歳から、10歳が中心です。

大型犬では15歳をすぎると今度は車に乗るのも一苦労となり、体調も良い日、悪い日を浪のように繰り返すので定期的な参加は無理があるようです。

次は、なぜ、老犬教室をはじめたのかについてお話しいたします。

いったんしつけ方教室を卒業した方々から老犬についての問い合わせが多く寄せられるようになりました。身体の異常ならば獣医師と相談し、治療を受けることで悩みは解決します。同様に、老化に伴い習慣や性格が変化していく愛犬にどう対処していけばよいのかを相談し、解消する場が飼い主にとって重要であるとわかってきました。

まずは「老犬教室」と命名した同窓会を開催してみました。



集まったときはもう大変。今までのんびりして暮らしていた犬たちは昔の仲間に出会い、興奮し、なんと次から次へとお漏らしをし始めました。

飼い主もベテランです。教室に入る前に排泄をさせて準備万端できたはずでした。

若い頃、教室でお漏らしなどしたことのないメンバーただだけに、集まった飼い主さんは、老化ってこういうことね〜、と、がっかりしながらも、みんながそんなのね、と、納得してわらっていらっやいました。

昔得意だった障害物の平均台に自信満々でのっかったり、ゲームを楽しんだりしました。そして、ストレッチを体験しました。

当時老犬にマッサージやストレッチなどをすることは余り知られていませんでした。

海外の資料を基に、人間の看護師、そして動物病院の獣医師、看護師さんと一緒に相談して当日のプログラムを決定しました。

とっても気持ちよさそうです。しかも、愛犬と触っていたい、という飼い主さんの心情を十分満足させ、人も犬も満足していました。ちなみにジータ3歳のときに老犬クラスに入学。若いのに彼の老後は非常に長いものとなったのです。

同窓会の中で、迫り来る老化にそなえる「老いじたく」をはじめようではないか、という意見が高まり、老犬クラスとして、出発しました。

老犬教室をはじめると同時に、飼い主さん、獣医さんの意見をお聞きし、老犬教室の心得を設定しました。

- ・動作はゆっくり。とにかくできる範囲ですこしだけ関心を広げるといふきもちで。
- ・愛犬の「きもちいい!楽しい!」を大切に
- ・リラックスするための教室なので、極力他犬との競争はなし。
- ・自分の犬との楽しい時間を意識すること。
- ・老化は進化と捕らえ、新発見を楽しむこと。
- ・飼い主の情報交換の場とすること。

情報交換の中には、知識の交換のみならず飼い主の心情の交流も大切なものと位置づけました。

あとからやってみて、この心情、老犬にまつわる感性的な交流が一番大切な物であるということがわかりました。

先ほどの3歳のジータですが、こののんびり教室がいたくお気に入り、他のレッスンの時には途中であきることもしばしばなのですが、一緒にやりたくてしょうがないのです。

ゆったりした老犬の雰囲気、なにかをおしつけられるようなことのない雰囲気がとっても気に入ったようで

す。この様子から、日々のレッスンもこの心得が必要であると思いました。

老犬のみならず、恐がりの犬もこのクラスに入ること非常に良好な結果が得られました。

私自身、犬のしつけ方教室が、「押し付け教室、お受験教室」になっていないか自戒する機会にもなったといえます。

老犬教室をはじめると同時に、飼い主さん、獣医さんの意見をお聞きし、老犬教室の心得を設定しました。

・動作はゆっくり。とにかくできる範囲ですこしだけ閾値を広げるといふきもちで。

・愛犬の「きもちいい！楽しい！」を大切に
・リラックスするための教室なので、極力他犬との競争はなし。

・自分の犬との楽しい時間を意識すること。
・老化は進化と捕らえ、新発見を楽しむこと。
・飼い主の情報交換の場とすること。

情報交換の中には、知識の交換のみならず飼い主の心情の交流も大切なものと位置づけました。あとからやってみて、この心情、老犬にまつわる感性の交流が一番大切な物であるということがわかりました。

先ほどの3歳のジータですが、こののんびり教室がいたくお気に入り、他のレッスンの時には途中であきることもしばしばなのですが、

一緒にやりたくてしょうがないのです。

ゆったりした老犬の雰囲気、なにかをおしつけられるようなことのない雰囲気があるととても気に入ったようです。

この様子から、日々のレッスンもこの心得が必要であると思いました。老犬のみならず、恐がりの犬もこのクラスに入ること非常に良好な結果が得られました。

私自身、犬のしつけ方教室が、「押し付け教室、お受験教室」になっていないか自戒する機会にもなったといえます。

そんな老犬教室のレッスンの例を2つ挙げます。

1つ目は、老いじたくアジリティです。アジリティとは障害物競走のようなものです。子犬には、いろんな動きや道具を経験させることに使い、若犬には、スピードや、飛び越えたり踏み外したりして事故がないよう、正確な動きをさせるために使いました。老犬では、無理のない運動は必要です。老犬の運動は、とにかくスローペースで行いバランスをとることを重視します。

教室でも家でもできる「簡単アジリティ」は犬に身体機能の維持、出来ることの喜びを与えることが出来ます。昔を思いだし、できた喜びを味わうことで自信をつける

ことを目的に体験させます。

また、足腰が弱ってきてヘルニアなどの病気になることもありがちなので、そうなった際の「リハビリテーション」に備える経験づくりに役立つといえます。

最近犬のリハビリセンターができ、獣医師とトレーナーと一緒に理学療法的なことをおこなう動物病院ができはじめました。急にリハビリの動きをしようとしたときに、経験した動きであれば、ストレスも感じずにできるというものです。

では、実際の様子を動画でお見せします。

・また動きはつまづくこともとても大切。

おとつと！と足をひっこめることもとても重要な意味があります。

ここではゴルフのバーを使っていますが、お家にあればなるべく軽い細い木などを使用した方が安全です。

・スラロームはできるようになったらあまり飼い主に注目させすぎないように、自然に前を向いた状態の方が犬の体に負担がないと獣医師からのアドバイスがありました。できるようになったら心がけたい物です。

・渡る際はぴよんと飛び降りないように、また、飛び降りてしまっても事故のない高さの物を使います。ここではお座りの後、だっこして降ろしました。

・椅子をくぐるのも少しだけ負荷がかかって楽しくできます。

椅子に引っかかってビックリさせないようにしっかり手で椅子を固定しながらおこないました。

このように家にあるもので無理のないよう、気を配りながらぜひやってみてはいかがでしょうか。

にこにこ笑いながら、語りかけながら一緒に楽しんでください。

次に老犬の飼い主が戸惑うのが「食への執着」です。若い頃はしつけで何と抑えることができたのに、ものを破壊したり、意外な場所に侵入したり、耳をつんざくような要求吠えをしたりと、泣くに泣けない状況に陥ることもあります。

逆に食べられない状況に陥ることもあります。飼い主としては食べてもらいたいものの、病気の時には食べることを強いると犬の立場としてはつらいときもあるようです。ですので、今回は「食への執着」についてお話しいたします。

愛犬サリーが食への執着を見せ始めたのは12歳を過ぎる頃からでした。とにかく異常なまでの執着です。体重もだんだん増えて、ほっそりした若い頃の面影は消え、ぼてつと5キロ以上太ってしまいました。

そんなサリーとの思いでの1枚の画像をお見せしま

す。

いつものようにお留守番をさせておりました。そして、仕事から帰ると・・・

あまりのすごさにおもわずカメラを向けてしまいました。もう、人格が変わっちゃったね。。。と、落胆しました。主人など、もう以前のサリーではない。とまで言い出す始末でした。

食への執着心対策として、

1. 悪習を習慣づけないとは、食品を出しっぱなしにしない等の管理、食事時間や回数をまちまちにする。

これは若いときの犬の環境管理として同じようにとても大切です。もう一回やり直す気持ちで周辺を見直します。

2. 水やお湯でふやかしたり、野菜を入れたりして嵩を増す

3. ゆっくり食べさせるように工夫する。

とにかく発想の転換としては、管理で食べさせないように、ばかりに心を配るのではなく、

ダメといっても聞かなくなったら、工夫して「与える」、ゆっくりでいいから「食べさせる」事が大切となります。

では、具体的なやり方をご説明いたします。まずはばらまきフード。小さい食器では食事が食べやすく、あっという間に終わってしまいます。

フードボウルをレジャーシートに替えるという発想の転換をしますと、探しながらじっくり食べるという狩りの本能も満足させることができます。まだあるかも?? という楽しみがで、フードを平らげても、まだまだ探しております。

次に大きなフード入れに例えば誤飲させない大きさのボールを数個入れてすぐにはフードを食べられないような工夫をし、ゆっくり味わって食べさせる工夫をします。宝探しゲームは、このような専用のおもちゃが売り出されていますので、利用されると良いと思います。

家の中全体の宝探しゲームならこんな具合です。

老犬はほとんど最後は食べられなくなるものです。要求吠えをしていたことが嘘のようにある日ぱたりと食べられなくなりますから、それまでの間、楽しい食事を心がけてみたいものです。

要求吠えにも、「ある程度受け入れる」という、老犬ならではの考え方も大切になります。

要求されたらどうぞ、といって1粒ずつあげます。10回あげたらもうおしまいね、といってちょっと要求を聞いてあげると悲痛な叫びをしなくなるものです。

人間の老い対策でも同じようにするそうです。

最後に、飼い主の悩みは同じ経験をもつ飼い主同士の情報交換をすることで心理的な安定を得ることができま

す。老犬ケアや暮らし方の工夫を紹介し合ったり、不安に思っていることを飼い主同士で聞いてもらったりしながらの、ティータイムを設定しています。

時には飼い主の健康管理のために、簡単にできる食事やおやつを持ち寄ることもあります。

皆さん同様に誰でも通る道であることを確認し、自分の犬に応用していきます。ネットワークがはぐくむ飼い主の心と体の健康は、老犬のいる暮らしのベースとなるものです。

グッズ体験会もおこないます。

市販の物は高額なうえに身につけてみないと無駄になってしまうこともあります。

レンタル制度が各病院でできることを提案いたします。

教室がなくても、今日聞いたことを試してみませんか?? 普通っていたしつけ方教室にお願いして機会を作ってもらっても良いと思います。

動物病院の待合室に体験コーナーなど設置していただけるとうれしいです。

お散歩仲間というと、どうしても同じような犬年齢で集まることが多い物ですが、犬の年齢の違う飼い主さんにも話しかけてみて、自分の体験談を話したり、お聴きしたりするのが良いと思います。

周囲で身近に老いていく姿がみられるだけで、未知である「犬の老いじたく」がやりやすくなります。

予備知識があると不安が軽減されます。自分の犬がどんな老いを迎えるのか予測がつけばあわてずに済みます。

今から直ぐにできることはお散歩仲間との情報交換。ぜひともやってみてください。

子犬叱るな 来た道だもの

老犬笑うな 行く道だもの

来た道行く道 二人旅

これから通る 今日の道

通り直しのできぬ道

本当は子供、年寄り、であるこの詩は、姑をみて主人がいつもつぶやく詩です。1日1日が一緒に過ごした思いでづくり。生きてきた証しです。

通り直しのできぬ道だからこそ、楽しく、味わって、犬と飼い主、一緒にえんやこら、と最後の1歩まで歩みたいものです。

ご静聴、どうもありがとうございました。